

## 展望2026



道路舗装

2026年は国土強靭化実施中期計画が始動し、建設投資も増加する見通しが示されている。一方で合材の出荷量は減少しており、資材・労務費の上昇も続いている。今後

NIPPO  
和田 千弘社長

も厳しい経営環境になるだろう。

昨年はインフラの老朽化に起因したトラブルが多く発生し、道路インフラを守る責任を再認識した。そのためにも、

2026年は国土強靭化実施中期計画が始動し、建設投資も増加する見通しが示されている。一方で合材の出荷量は減少しており、資材・労務費の上昇も続いている。今後

### 合材工場・施工拠点を安定維持

を進める。使用燃料の都市ガス化や再生可能エネルギーで製造したCNガスの使用に取り組む。

グループ体制については、

だ。施工体制を安定的に確保することに取り組むことができる事業量を確保・創出して

いきたい。

全国各地にある地域の製販子会社を含む計151の合材工場と地域の計200の施工拠点をしっかりと維持・運用していく。

協力会社との関係では、雇

用の安定と事業の継続性を確

保することが何よりも大切

う。

昨年はインフラの老朽化に

起因したトラブルが多く発生

し、道路インフラを守る責任

を再認識した。そのためにも、

技術開発や設備投資は今後

も省力化・省人化、そして二

酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量削

減に力を注ぐ。合材工場では

タイでは公共工事で再生合材

が使われるようになり、再生

合材の出荷可能な合材工場を

活用していく。

力ケーブル、ニュートラル(CN)

を進めることで、都市ガス化や再生可能エネルギーで製造したCNガスの使用に取り組む。

グループ全体としての協力体制をさらに強固にするため、各社との情報共有を進める。

海外では、現地舗装会社に

出資しているタイとベトナム

で合材事業を展開中だ。特に

タイでは公共工事で再生合材

が使われるようになり、再生

合材の出荷可能な合材工場を

活用していく。



わだ ちひろ  
NIPPO 和田 千弘 社長

――2025年の振り返りを  
「昨年は全国各地でインフラの  
老朽化に起因したトラブルが多く  
発生した。豪雨・大雨や大規模地  
震など自然災害も激甚・頻発化し  
ており、被害を受けた際にはいち  
早く道路の復旧に携わり、インフ  
ラの復旧に貢献しなければいけな  
いと感じた一年だった。人々の暮  
らしを支える基盤である道路を守  
り続けるわれわれの仕事の責任感

――26年の展望は  
「事業環境に大きな変化はない  
だろうが、全国にある施工拠点、  
合材工場がそれぞれの業務を通じ  
て、責任を持って社会インフラに  
貢献できる体制を維持していく」

――技術開発の方向性は  
「当社は、現場や世の中でも必要  
としている技術開発に注力してお  
り、施工の省人化、省力化、そし  
て、地域に貢献できる体制を維持  
していく」

――協力会社との協力体制は  
「協力会社が計画的に人を雇い、  
していきたい」

――海外事業は  
「タイとベトナムで現地舗装会  
社に出資し、合材を中心とした事  
業を展開している。タイでは公共  
工事で再生合材が使われるようにな  
り、再生合材が出荷できる工場  
を活用していく。ベトナムでも今  
後、再生技術を活用することが見  
込まれることから、同国の役に立  
つ事業を進めた」

てCO<sub>2</sub>削減に向けた技術を開発  
している」

「脱炭素への対応では、カーボ  
ンニュートラルの実現に向けて、  
工場の使用燃料の都市ガス化、中  
温化合材の提供を進めているほ  
か、電動建機の導入や廃ペートボ  
トルの活用などにも取り組んでい  
ます。『女性社員働きがい向上研修』  
を24年からスタートさせた。現場

事業を営めるようにすることが最  
も大切だと考えている。NIPPO  
グループが安定的に仕事を発注  
することに取り組むことができる」



横顔

今年の一字には「道」を選んだ。本  
業である道路舗装の面から、世の中に  
不可欠な「道」を守り続ける決意を込  
めた。